

魔性

他人ひとの中に埋もれる宝石を取り出そうとして
他人の胸を酷くも切り裂き
流れ出す血と共に震える手にすくう美の宝石

その輝きに目を奪われて
他人の喘ぎ苦しむ様は見向きもせず
哀れその人は地獄へと旅立つ

僕の気付いたときは既に遅く
微かな息も早や途絶え
蒼白く硬直した肉の塊が横たわるのみ

泣きじゃくる僕の後悔をよそに
ただ、時だけが重い足音を立てて通り過ぎ
辺りに漂い始めるのは死体よりの腐臭

(呪われよ、魔性に憑かれた男
立ち去れよ、雑踏の中より・・・)

(1982.10.1)